
第 92 回関西スペイン語教授法ワークショップ(TADESKA) 開催の報告
XCII Reunión del Taller de Didáctica de Español de Kansai

日時：2015 年 10 月 3 日（土） 10:30 - 12:30

場所：関西学院大学梅田キャンパス(ハブスクエア) 1002 教室

担当者：各務恭子

「日本の高等学校におけるスペイン語教育の制度的条件と環境」

* Fecha y hora: sábado, 3 de octubre de 2015, de 10:30 a 12:30

* Lugar: Universidad Kwansei Gakuin, Campus de Umeda "K.G. Hub Square", Aula 1002

* Encargada: Kyoko Kakumu

* "Condiciones institucionales y la situación en el aula para la enseñanza del bachillerato de español en Japón"

日本の高等学校におけるスペイン語教育の制度的条件と環境について、担当者が勤務する 3 つの高等学校の事例について発表を行った。

各高等学校の沿革や教育目標、全校生徒数などの紹介の後、スペイン語を選択している学年、授業時間数、生徒数、使用テキスト、定期考査などの説明をした。また同時間に授業が行われている外国語についても生徒数などを紹介した。

発表のあと、参加者から大学は 90 分授業であるが高等学校は 50 分の授業（担当者の勤務しているところは全て 50 分であるが、45 分やその他の時間のところもある）をどのような流れで行っているかとの質問があった。また生徒を授業に集中させるにはどうすればよいかなどの話や、高等学校によっては評価の基準値が決められていて成績をつけるのに苦労するなどの話もでた。

今回、参加者の中にゲストとして高等学校でスペイン語を教えておられる先生、大学院で高校のスペイン語教育を研究されている方が来られ、その方々とも活発に意見を交えることができ有意義であった。

高等学校でスペイン語の授業を行っているところの一例として今回紹介できたことは意義があったと思われる。